

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 校内生徒アンケート調査における規範意識やいじめにかかわる項目において、肯定的回答率が前年度を上回り、いずれの項目も90%を超える高い値を示した。また、学校で認知したいじめも解消されている。一方、新たに不登校になった生徒は増加しており、「生徒理解とカウンセリングマインドを基盤にした相談活動」をさらに重点的、継続的に取り組んでいく必要がある。今後も、規範意識の醸成といじめの未然防止・早期発見・早期解決、一人ひとりの生徒に向き合った生活指導に取り組んでいく。
- 3年生チャレンジテストにおける標準化得点の同一母集団での比較では前年度を下回ったが、全国学力・学習状況調査においては全国平均を上回り、1・2年生のチャレンジテストにおいても大阪府平均を大きく上回っている。授業アンケートや校内生徒アンケート調査における学習内容の習得や授業の工夫など、肯定的回答率が前年度を上回った。今後も、基礎基本の定着を図るとともに、ICTを活用した授業内容や授業形態等を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った学習指導をとおして生徒の学力・体力の向上に取り組んでいく。
- 基本的生活習慣に課題が見られ、生徒アンケート調査で「朝食を毎日食べている」と回答した生徒の割合は全国平均を下回っており、継続した取り組みが必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成32年度末の校内生徒アンケート調査における「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」の項目について肯定的回答率を95%以上にする。
- 平成32年度末の校内生徒アンケート調査における「学校は楽しい」の項目について肯定的回答率を85%以上にする。
- 平成32年度末の校内生徒アンケート調査における「将来の夢や目標を持っている」の項目について肯定的回答率を80%以上にする。
- 平成32年度末の校内生徒アンケート調査における「学校や地域でしっかりあいさつをしている」の項目について肯定的回答率を95%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成32年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、平成28年度より向上させる。
- 平成32年度末の校内生徒アンケート調査における「先生たちは、授業をわかりやすくするために工夫している」の項目について肯定的回答率を85%以上にする。
- 平成32年度末の校内生徒アンケート調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について肯定的回答率を90%以上にする。
- 平成33年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における向上点が、全国平均を上回るように取り組む。（体育実技授業時、部活動、運動的行事等に基礎トレーニングを取り入れる等）
- 平成32年度末の校内生徒アンケート調査における「朝食を毎日とる習慣が身についている」の項目について肯定的回答率を95%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を93%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」の項目について肯定的回答率を前年度より上昇させる。
- 年度末の校内調査における「学校は楽しい」の項目について肯定的回答率を80%以上にする。
- 年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っている」の項目について肯定的回答率を75%以上にする。
- 年度末の校内調査における「学校や地域でしっかりあいさつをしている」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- 中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より向上させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である持久走の平均の記録を、前年度より向上させる。

学校園の年度目標

- 年度末の授業アンケートにおける「学習内容の習得」の平均得点を、前年度より向上させる。
- 年度末の校内調査における「先生たちは、授業をわかりやすくするために工夫している」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。

【その他】

- 年度末の校内調査における「朝食を毎日とる習慣が身についている」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。
- 年度末の校内調査における「体育大会・文化祭などの行事で、わたしが力を発揮し活躍する場がある」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ・年度末生徒アンケート調査における「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」の項目では肯定的回答率が前年度を 2.4%上回る 93.3%、「先生たちは、いじめがない学級づくりに取り組んでいる」の項目では、肯定的回答率が前年度を 0.8%上回る 93.2%と高い値を示した。校内調査や教育相談活動等において学校で認知したいじめは解消されている。今後も、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向け、継続した見守り活動、啓発活動に取り組んでいく。
- ・年度末生徒アンケート調査における学校のきまりや規則を守る項目の肯定的回答率は、時間の項目では 96.1%、服装の項目では 99.3%、授業態度では 92.6%、正しい言葉づかいでは 95.1%といずれも 90%を超える（目標値 93%）値を示した。また、今年度の暴力行為を複数行う加害生徒は 2 名であった。（前年度 1 名）今後も正しい規範意識を身につけさせられるよう継続して取り組みを進めていく。
- ・今年度、新たに不登校になった生徒は 5 名から 13 名に増加した。「生徒理解とカウンセリングマインドを基盤にした相談活動」をさらに重点的、継続的に取り組んでいく。
- ・年度末生徒アンケート調査における「わたしは、学校生活を楽しみにしている」の項目では、肯定的回答率が 74.1%前年度より-2.3%、目標値より-5.9% 一方「わたしは夢や希望、目標をもって、学習やその他の活動に取り組んでいる」の項目では肯定的回答率が 81.5%と目標値を上回った。
- ・年度末生徒アンケート調査における「わたしは学校や地域でしっかりあいさつをしている」の項目では、肯定的回答率が前年度を 2.6%下回る 92.9%であった。今後も継続して、生徒会を中心とした「あいさつ運動」や PTA と連携した「地域クリーン活動」等の活動をととして教育活動を推進していく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・3 年生チャレンジテストにおける標準化得点の同一母集団での比較で、数学と理科では下回ったが、国語、社会、英語では上回った。また、府平均の 7 割に満たない生徒の割合は、0.1 ポイント減少にとどまり目標を下回ったが、府平均を 2 割以上上回る生徒の割合においては 2.5 ポイントの増加で目標を上回った。
- ・年度末生徒アンケート調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目では、肯定的回答率が 85.5 であり、前年度より 2.0%下回る。
- ・年度末生徒アンケート調査における「先生たちは、授業をわかりやすくするための工夫をしている」の項目では、肯定的回答率が 94.0%であり前年度より 2.0%上回った。また、授業アンケートの学校平均値は 5 項目平均で昨年を 0.10 ポイント上回る 3.46 (4 点満点) ポイントであった。項目別では「学習内容の習得」で 0.08 ポイント上回る 3.43 ポイント、学校独自で追加した「授業の工夫」では 0.08 ポイント上回る 3.48 ポイントであった。今後さらに「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った指導方法の工夫を図りながら、生徒の学力向上に取り組んでいく。

【その他】

- ・令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」におけるの持久走平均記録は、本校 2 年生（男子 1500m：400.00 秒）（女子 1000m：301.00 秒）
- ・年度末生徒アンケート調査における「朝食を毎日取る習慣が身についている」の項目では、肯定的回答率が前年度 1.0%上回る 86.9%であった。
- ・年度末生徒アンケート調査における「体育大会・文化祭などの行事で、わたしが力を発揮し活躍する場がある」の項目では、肯定的回答率は 84.4%であり前年度より+4.9%
- ・健康教育部では、毎月発行の「食育つうしん」や「ほけんだより」を通じて、朝食や栄養バランスの重要性、基本的生活習慣の確立に向けた取り組みを推進している。

大阪市立桜宮中学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・地域・家庭）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を93%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」の項目について肯定的回答率を前年度より上昇させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「学校は楽しい」の項目について肯定的回答率を80%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「将来の夢や目標を持っている」の項目について肯定的回答率を75%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「学校や地域でしっかりあいさつをしている」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>個々の生徒の規範意識や社会性の醸成に努めるとともに、規律ある集団の育成に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査における「授業態度」「時間」「服装」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合をすべて93%以上にする。 ・校内調査における「学校や地域でしっかりあいさつをしている」の項目について肯定的回答率を96%以上にする。 	B
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>個々の生徒の生活実態を把握することにより生徒理解を深め、それぞれの生徒に応じた課題解決に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査における「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」の項目について肯定的回答率を91%以上にする。 ・校内調査における「先生たちは、わたしたちの心配ごとや悩みごとに気づき、相談に応じてくれる。」の項目について肯定的回答率を80%以上にする。 ・校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 	B
<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>人権教育を基盤に道徳授業をはじめとする全ての教育活動を通じ、人を思いやる気持ちや仲間を大切にする心など道徳的心情を育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査における「人の立場を考え、相手を思いやることができる」の項目について肯定的回答率を93%以上にする。 ・校内調査における「学校は、一人ひとりの子どもを大切にしたい教育を進めている。」の項目について肯定的回答率を91%以上にする。 	B

取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 外部人材を活用した体験的な学習を取り入れ、将来に夢や目標を持って学習する生徒を育成する。	
指標 ・校内調査における「将来の夢や目標を持っている」の項目について肯定的回答率を80%以上に する。 ・校内調査における「学校は楽しい」の項目について肯定的回答率を80%以上に する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①・年度末生徒アンケート調査における「わたしはきちんとした態度で授業を受けている」についての肯定的回答率はH30年度94.3%、令和元年度92.6%であり-1.7%「わたしは時間を守り遅刻しないように心掛けている」についての肯定的回答率はH30年度95.4%、令和元年度94.8%であり-0.6%「わたしはきちんとした服装で学校生活を送っている」についての肯定的回答率はH30年度98.5%、令和元年度99.3%であり+0.8%</p> <p>・年度末生徒アンケート調査における「わたしは、学校や地域でしっかりあいさつをしている」についての肯定的回答率は92.9%目標値よりも-3.1%</p> <p>②・年度末生徒アンケート調査における「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」についての肯定的回答率は93.3%目標値よりも+2.3%</p> <p>・年度末生徒アンケート調査における「先生たちは、わたしたちの心配ごとや悩みごとに気づき、相談に応じてくれる」についての肯定的回答率は75.5%目標値よりも-4.5%</p> <p>・校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合は、100%</p> <p>・今年度、新たに不登校になった生徒は5名から13名に増加した。</p> <p>③・年度末生徒アンケート調査における「わたしたちは自分を大切にするとともに、人の立場を考え、相手を思いやることができる」についての肯定的回答率は89.4%目標値よりも-3.6%</p> <p>・年度末生徒アンケート調査における「学校は一人ひとりの子どもを大切にした教育を進めている」についての肯定的回答率は83.7%目標値よりも-7.3%</p> <p>④・年度末生徒アンケート調査における「わたしは、夢や希望、目標をもって、学習やその他の活動に取り組んでいる」についての肯定的回答率は81.5%目標値よりも+1.5%</p> <p>・年度末生徒アンケート調査における「わたしは、学校生活を楽しみにしている」についての肯定的回答率は74.1%目標値よりも-5.9%</p>	
次年度への改善点	
<p>①「当たり前のことを当たり前にする」をもっとうに現状に満足せず、日々の学校生活を大切にするよう指導を継続していく。</p> <p>②いじめのない学級づくりのために、教育相談、教育懇談等でも日々の生徒の変化を見逃さず、声かけや相談しやすい環境づくりに努めていく。</p> <p>③全ての教育活動を通して高い人権意識を育成するとともに、本物に触れる機会を増やし、多様な文化を理解する態度を育成する。</p> <p>④生徒個々の特性を生かした教育活動を推進し、自己実現に向けたキャリア教育や進路指導の充実を図る。</p>	

大阪市立桜宮中学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標 (小・中学校) ○中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 ○中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。 ○年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より向上させる。 ○全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である持久走の平均の記録を、前年度より向上させる。 学校の年度目標 ○年度末の授業アンケートにおける「学習内容の習得」の平均得点を、前年度より向上させる。 ○年度末の校内調査における「先生たちは、授業をわかりやすくするために工夫している」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 生徒一人ひとりの学力を把握し、習熟度別少人数授業、研究授業等に積極的に取り組む中で指導方法の工夫・改善を図り、より「わかる授業」を実践し、学力の向上に取り組む。	A
指標 ・中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・中学校チャレンジテストにおける正答率が市平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 ・中学校チャレンジテストにおける正答率が市平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。 ・2学期末の授業アンケートにおける「学習内容の習得」の項目について、平均得点を3.36点以上にする。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善やICTの活用により、生徒の学習意欲が高められる授業の改善・工夫に取り組む。	B
指標 ・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について肯定的回答率を88%以上にする。 ・校内調査における「先生たちは、授業をわかりやすくするために工夫している」の項目について肯定的回答率を92%以上にする。	
取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 保健体育科の授業や体育的行事において、生徒が自主的に企画、運営できる工夫を図り、生徒が自ら運動に取り組もうとする意欲を高め、体力の向上を図る。	B
指標 ・保健体育科の授業において、持久走の記録で本校前年度の平均記録を上回る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①・チャレンジテスト R1,6月 実施 8月 結果返却 R2,1月 実施 (1,2年生)
 - ・中学校チャレンジテストにおける標準化得点の、同一母集団での比較において、3年生は、前年度より2.1ポイント向上した。
 - ・中学校チャレンジテストにおける正答率が府平均の7割に満たない生徒の割合の同一母集団での比較において、3年生は前年度より0.1ポイント減少したが目標値より1.9ポイント下回った。
 - ・中学校チャレンジテストにおける正答率が府平均を2割以上上回る生徒の同一母集団での比較において、3年生は前年度より2.5ポイント増加し、目標値より0.5ポイント上回った。
 - ・2学期末の授業アンケートにおける「学習内容の習得」の項目について、平均得点は3.43点となり、目標値の3.36点より、0.07ポイント上回った。
- ②・年度末生徒アンケート調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」についての肯定的回答率は85.5% 前年度87.5%
 - ・年度末生徒アンケート調査における「先生たちは、授業をわかりやすくするために工夫している」についての肯定的回答率は94.0% 前年度92.0%
- ③・令和元年度、「全国体力・運動能力、運動習慣調査」におけるの持久走の平均記録は、本校2年生（男子1500m：400.00秒）（女子1000m：301.00秒）前年度 全国平均（男子：392.65秒）（女子：286.85秒） 前年度 大阪市平均（男子：410.43秒）（女子：304.56秒）

次年度への改善点

- ①習熟度別少人数授業、TTに取り組むとともに体験的な学習など、個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な学力の向上に努め一定の成果を上げてきた。今後もICT機器を活用した授業研究等を積極的に推進し、授業力を向上させ「わかる授業」の創造に努める。また、OJT事業と連動し、引き続き相互授業参観や研究授業・研究協議を積極的に実施し学力の向上にも努めていく。
- ②豊かな人間性や情操を育むために、本物に触れる機会を増やし、日本の歴史、伝統、文化だけでなく多様な文化を理解し、人権意識の高い国際社会人を育成する。
- ③限られた環境の中で部活動を実施する中、新しい運動部の設立や部員数を多く確保する必要がある。また、活動場所の環境整備に力を入れるとともに運動場、体育館の拡張を望む。

大阪市立桜宮中学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 学校の年度目標 ○年度末の校内調査における「朝食を毎日とる習慣が身についている」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。 ○年度末の校内調査における「体育大会・文化祭などの行事で、わたしが力を発揮し活躍する場がある」の項目について肯定的回答率を前年度より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 「食育通信」や食育教育を充実させ 食を大切にし、朝食を毎日とる習慣を身につけさせる。	A
指標 ・校内調査における「朝食を毎日とる習慣が身についている」の項目について肯定的回答率を86%以上にする。	
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 生徒が主体となった学校行事・学年行事に取り組む。	B
指標 ・校内調査において、「体育大会・文化祭などの行事で、わたしが力を発揮し活躍する場がある」の項目について肯定的回答率を90%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①・年度末生徒アンケート調査における「朝食をとる習慣が身についている」についての肯定的回答率は86.9% 前年度85.9% ②・「体育大会・文化祭などの行事で、わたしが力を発揮し活躍する場がある」についての肯定的回答は84.4% 前年度89.3%
次年度への改善点
①・年度末生徒アンケート調査における肯定的回答率は前年度より+1.0%であった。食育の観点から「朝食をとる習慣の大切さ」を継続的に指導し、今以上に朝食喫食率を高める。 ②・学校行事や学年行事等で教職員側がすべて準備するのではなく生徒会が中心となり、生徒自身に考えさせ行動させた結果、各行事での成功体験をさせるように取り組んでいきたい。